

# 院外茶話

vol.63 平成 22 年 8 月 1 日

もう見ることはない  
そう思っていたけれど  
ものすごいスピードで  
飛んできたツバメ

## 帰って来たツバメ

中学に入ってバス通学が始まった。早朝、「自由が丘駅入り口」のバス停に並んでいると、軒下にできたツバメの巣から、ヒナが何羽か顔を出していた。

よりによって乗降客が行列を作る真上と思ったが、ツバメは静かなところよりも、むしろ人気の多い場所を好んで巣を作る。人がいれば天敵のカラスが来ないからで、こういう場所に枯草と泥を運び、唾液で固めて巣を作るのである。



バス停「自由が丘駅入り口」。当時の姿ではありません。

ヒナを残して飛び立った親ツバメは、地面すれすれの超低空飛行をして、空中で虫を捕る。みごと虫を捕ったときか、あきらめたときか知らないが、地面から急上昇をする姿は、戦闘機の空中戦さながらで、それは見事。もっとも本物の空中戦など、見たことはないが。

もともとツバメは害虫を捕るので、農家では歓迎をされた。また、人の出入りの多い家に

住み着くので、商売繁盛の願いをこめて、商家でもツバメの巣は大切に守られた。

しかしある日のこと、守られるはずのツバメの巣に危機が訪れた。バス停が改修をされることになったのです。毎年ヒナが育っていった巣が、撤去されてしまうのは見るに忍びない。近所には商売をやっている人も大勢いて、この方たちが巣の保存を求めて嘆願書を出したけれど、聞き入れられることはなかった。

東急電鉄も大きな会社なのだから、大工さん一日分くらいの手間賃を割いて巣を残せば、株もさぞかし上がっただろうに。今となっては、ツバメの本当の天敵は、カラスから人間に変わったかも知れない。

ツバメがいなくなって、かわりに増えたのがカラス。あとは中型の茶色っぽい鳥が、我が家に頻りに飛んで来るようになったけれど、この鳥の名前はわからない。



ツバメのことはすっかり忘れて数十年。今年の春、あの懐かしい姿が戻ってきた。見回せば自由が丘駅構内の、柱のてっぺんに新たな巣が二つできている。

うち、一つにはヒナが数羽残って、ピーピーと鳴いているではないか。

巣から尻尾がはみ出しているのが見える。ツバメが戻ってきた。思わず立ち止まって見上げてみると、親ツバメは勢いよく巣を飛び出し、雑踏の上を駅前広場に向かって飛んで行った。



自由が丘駅のツバメの巣。成長したヒナの尻尾がはみ出して。

## 空の上の 入院日記(5)

時が経って病気そのものは順調に改善を続けたけれど、ステロイドの副作用は日増しに強くなる。全身の筋肉は落ちて、真直ぐに歩くことすらままならない。眠れない。口内炎が痛む。

妻は何の用事もないのに、毎日のように見舞いにくる。90歳を過ぎる母と、犬の面倒も見なければならぬので、もういいとは言ってみたものの、本当は嬉しかった。

治療が長引けば胃と大腸の内視鏡検査をやって、ガリウムシンチグラフィなど、副作用の検査も忙しい。加えて運動不足と寝不足。不安と疲れが重なって、ストレスは極限に達していたと思う。

夜がものすごく長い。眠れないので立ち上がって見るが、立っているだけでは、何の解決にもならない。でも、横になると天井がまわる。夜中に立ったり座ったりして何日かを過ごし、あるとき、どうにもならなくなって、自分の頭が壊れていくのがわかった。

「世の中には同じ空間が二つあって、一方にはみんなが暮らしているけれど、もう一方の世界には自分しかいない」

こんな幻覚に襲われて、明け方まで眠れずに、震えながら夜勤の看護師を呼ぶベルを押した。翌朝には早速、精神科の医師が来てくれた。ステロイド精神病ではなさそうで、寝不足と疲れが原因の神経症状とのこと。薬でことごとく眠らせてくれました。

以来、二つの世界は現れなくなったけれど、

精神を患った人の、どうしようもない気持ちが、幾分でもわかったような気がします。

ともあれ、こんな状態が続いて、むしろ病院にいたことの方が弊害になるだろうと、ようやく退院の運びとなりました。

久々に見る街は何ともいいものだ。身体が重い、太りやすい、動くのが辛い、顔が丸い。そんなことはどうだっていい。娑婆に出られたのだから。

やるべきことは節食と適度の運動。2週間毎の通院。血小板の数を調べては、少しずつステロイドを減らしているけれど、時々検査の結果が悪くて予定が狂います。

ただ一つ実感をしたことは、この年になって病気になると、元の通りには戻らない。病気が治るということは、一旦機能が低下した身体が、そのままの状態安定をする、ということである。

リハビリを続けて多少は改善をしたが、歩く速度も階段を上る力もずいぶん落ちた。もう銀ブラはやめにしよう。

良くなったり、悪くなったり繰り返しながら、この先10年、20年の間にいくつかの病気を重ねて、少しずつ自由がきかなくなる。これが高齢者の常。

幸い、私の仕事は座ってできる。1日に数時間、座っていただける体力を回復して、頭が清明であれば復帰ができる。

今更、山登りをするこも、フルマラソンを走るこもあるまい。これでよしとして、少し大人しい趣味でも続けようと思います。

「空の上の入院日記」もついに退院をしたので、これにて一件落着です。

長らく愚痴のお付き合いを頂いて、ありがとうございました。



憧れの娑婆、自由が丘の南口